

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL) 6765-8904
(FAX) 6765-8905

手に汗握る白熱戦！佐野支援学校分会が優勝！

堺聴覚分会ゆるゆるリーグ優勝！8チームが楽しく交流！！

青年部主催 新歓バレーボール大会 (堺聴覚支援学校会場)

4月20日(土)に、堺聴覚支援学校で、大障教青年部主催の新歓バレーボール大会が行われました。ゆるゆるリーグには堺聴覚支援学校分会、泉南・すながわ支援学校分会、中央聴覚支援学校分会の3チームが参加しました。ガンガンリーグには堺聴覚支援学校分会、佐野支援学校分会、泉南・すながわ支援学校分会、中央聴覚支援学校分会(2チーム)の5チームが参加しました。



堺聴覚支援学校分会チームのみなさん

ゆるゆるリーグでは、総当たり戦で計3試合を行いました。参加チームが例年よりも少なかったため、今年度はじっくりと20点制の2セット先取で試合を行いました。長いラリーに、フルセットまで

でもつれ込む試合もあり、見応えたっぷりの試合展開でした。今年度の優勝は、息のあったプレーを披露した堺聴覚支援学校分会チームでした。準優勝は泉南・すながわ支援学校分会チーム、第3位は中央聴覚支援学校分会チームでした。

参加者の感想で～す！

- ゆるゆるチームで参加させていただきました。優しいルールでとてもやりやすかったです。ガンガンチームは本当に上手で見ている側も楽しめました。参加してよかったです。
- 不安もありましたが、楽しくできました。もっと参加校が多いと、より楽しいと思う。
- とても楽しかったです。2チームに分かれるので、参加しやすかったです。
- 他学校、他学年、他学部の先生方と交流できるととても良い機会でした。初心者にもやさしかったです。

交流試合もはさみ、充実した1日となりました。チーム内やチームを越えた交流に繋がったのではないのでしょうか。朝早くから準備等のご協力をいただいた会場校のみなさん、ありがとうございました。

チームプレーを見せる中、激戦を制して今年度の優勝に輝いたのは、昨年度の準優勝校の佐野支援学校分会チームでした。



佐野支援学校分会
チームのみなさん



ガンガンリーグは迫力満点！

青年部のとりくみにご参加を！

今年度も大障教青年部では、スポーツを通じた交流・レクリエーションのとりくみや、青年教職員のための実践力アップ！講座などの教研活動を行なっています。ぜひふるってご参加ください。

4月27日の交野支援学校四條校での試合結果についても、大障教ニュースでお知らせします。お楽しみに！

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のつらつら

来週は、待ちに待った(?)10連休到来です。新年度の疲れをほぐしたり、旅行に出かけてみたり、忙しい日常ではとれない時間を過ごそうと考えておられるのではないのでしょうか。

青年教職員のみなさん、5月1日は何の日かご存知でしょうか。5月1日は、年に1度の労働者の日、MayDay(メーデー)です。8時間労働制を求める労働者の国際連帯の日として始まったメーデーは、世界中で行われており、日本でも1920年から始まり、今年で第90回目を迎えます。

1886年5月1日、1日12時間から14時間労働が当たり前だった当時、アメリカ労働組合が、8時間労働制を要求してストライキデモ行進を行ったことがメーデーの起源と言われています。アメリカの労働者は、「第1の8時間は仕事のために、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間は、おれたちの好きなことのために」という「8時間労働の歌」を歌いながらたたかい、8時間労働制を勝ち取りました。

ここ近年、教職員の長時間過密労働など学校現場の「ブラック化」が社会問題になってきました。「働き方改革」関連法が成立しましたが、中身は、過労死基準を超える残業を可能とし、労働者を使い捨てるに似る制度です。心や身体が壊れるまで働かせるような制度を許すわけにはいきません。

教職員も労働者です。学校で学ぶ子どもはもちろん、学校で働く教職員も笑顔で過ごし、人間らしく働き、安心して暮らせる社会をみんなで作っていききたいですね。『みなさんは「残りの8時間」をどのように過ごしますか?』今年のメーデーは、そんなところから考えてみませんか。

恒例!新転任歓迎昼食会に36人! 新転任のみなさんと楽しいひととき!



新しい仲間を迎え、

各分会での趣向を凝らした新歓のとりくみ (その1)

交野支援学校四條畷校分会



歓迎昼食会には分会員がほぼ全員集まりました

まず、定年退職される先生へ、組合員として定年を迎えられた尊敬と感謝とねぎらいの気持ちを込めてみんなから花束を渡した後、ニュースを使って知事選の

四條畷校分会ではここ数年、年度末と年度初めに集まりをもっています。まず3月25日、お昼の休憩時間を利用して恒例の年度末分会集会を行いました。今回もお休みの人を除くほぼ全員が集まりました。

とりくみやカンパの訴えをしました。そのあとは、いつものように「ひとり一言」で順に発言しました。特に若い先生方から新鮮な、また子どもについての熱い思いが語られとても頼もしく感じました。

新年度のとりくみとして、分会役員会で新転任者は、分会役員会で新転任者4月2日の辞令交付式には、分会から5人が会場の大阪国際交流センターまでお迎えに出向きました。5人の初任者のうち4人の方とお会いすることができ、一緒に楽しくおしゃべりしながら

4月2日の昼休みに、新規採用を含む14人の新転任のみなさんと組合員2人の参加で、歓迎昼食会を行いました。四條畷校分会としては、4回目の新歓歓迎昼食会で、今年もたくさんの方々に集まることができ、本当にうれし

ら学校までご案内しました。4月2日の昼休みに、新規採用を含む14人の新転任のみなさんと組合員2人の参加で、歓迎昼食会を行いました。四條畷校分会としては、4回目の新歓歓迎昼食会で、今年もたくさんの方々に集まることができ、本当にうれし

く思いました。歓迎昼食会は大島分会長のあいさつから始まり、新転任のみなさんと組合員が入り混じった自己紹介が続きました。今年の抱負を織り込んだ自己紹介はとても楽しく、アットホームな雰囲気です。昼食会がすすまいました。教師生活のスタート、

鈴木浩司

全国障害児学級・学校 交流集会に参加して (感想その8)

若者の「語りのバトン」に触れて

今回の学習交流集会の分科会での、震災総合学習の実践報告の中で、震災の経験を若者たちが語りはじめてくれた「語りのバトン」に触れることができました。聞いているだけでなく、やはり現地に足を運ばないと聞こえない、見えない、知られない現実があると、被災地宮城を訪れる機会があつてよかったと改めて思いました。

辛い経験、押しつめていた思い。人に話せなかった思い。自分だけが辛い思いをしていると思っていたこと。水が出たときの喜び、当たり前なことがこんなに嬉しいことと気づいたこと。そんな思いを、少しずつ語ることを通して気持ちが楽になったと、話してくれました。自分は語ることで気持ちが楽になった。けれど、まだ語られない人もいます。大切な人が目の前からなくなることの悲しさなど、気持ちを抑えて、まだ本当の気持ちが語れてない人がいる。だから、その人に寄り添って、気持ちを楽にしてあげたいという思いも語ってくれました。船を守るために命をなくした祖父を思いだし、「あの時止めていれば…」と、後悔する思いをずっと引きずっていたこと。語られたからすべてが楽になるわけではないけれど、でも、語ることの大切さを知り、それを語ることで気持ちが楽になれた。また逆に、語ることで辛くなったりすることもある。しかし、語りあうことを通しての「語りのバトン」で、命の大切さを知り、この震災で学んだことだと話してくれました。

「辛かったのは震災当日だけではなく、その後2、3年がもっと辛かった」震災の当日のことは、ニュースなどで映像として報道され知られているけど、少しずつ風化されていく2年、3年後。その辛かった思いは、癒された訳でなく、いまなおずっと続いていることだと、最後に語ってくれた言葉がずっと胸に突き刺さっている状態が続いている中、会場を後にし、空港に向かいました。電車移動しているとき、「復興されたところ」とは対照的に「まだ枯れ果てた田畑」が混在していた情景を目の辺りした時、過去ではなく、今なお続いている復興へのあゆみ。現地に足を運んだからこそ、報道だけでは知りえない現状に向き合えることができました。

地震国日本。阪神大震災を経験しているにもかかわらず、やはり過去のことになっていた自分の思いを改め、少しでも前に向かって歩みだし、生きて行けるように。これからも被災地に思いを寄せていきたいと思ひます。

(北視覚支援学校分会 平野由佳)